



つくばコミュニケ（仮訳）
G7 茨城・つくば科学技術大臣会合
2016年5月15-17日

〔抜粋〕

3: 海洋の未来:

～科学的根拠に基づく海洋及び海洋資源の管理、保全及び持続可能な利用に向けて～

海洋生物の生育海域の過剰利用や破壊、海の温暖化や酸性化の進行、酸素濃度の低下により、海洋環境は急激に変化している。「海の健康」は経済開発に関する極めて重要な問題として適切に認識されており、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の目標 14 に含まれている*。このような進展があるにもかかわらず、海洋内部の大部分は十分に観測されていない。我々は上記のすべてを認識し、海洋で起きている変化やその経済へ与える影響を評価するために必要な科学的知識を発展させることが極めて重要であることを確信した。また、我々は、海洋の持続可能な利用を確立するため、海洋に関する適切な政策を立案しなければならない。したがって我々は、海洋の未来に関する G7 専門家作業部会の進捗と提言を歓迎する(参考添付 2 参照)。

SDG の目標 14 およびその他の関連する目標の達成や関連する条約の目的に資するため、我々は以下の行動をとることを支援する。

- i. 既存の海洋観測の維持や調整を行う一方で、国際アルゴネットワークやその他の海洋観測プラットフォームを通じて、気候変動や海洋生物多様性をモニターするのに必要となる地球規模の海洋観測の強化のためのイニシアチブへの取組を支援する。
- ii. G7 グループ内外での持続可能な管理戦略の策定・実行を可能とする定期的な時間軸に沿って、海洋の状況に関する一致した見解を形成するため、国連の「レギュラープロセス」を通じて海洋アセスメントのシステムを強化することを支援する。
- iii. さまざまな海洋データの発見可能性・利便性・互換性を確保するために、オープンサイエンスを推進し、グローバルなデータ共有インフラを向上させる。
- iv. 途上国の能力強化・向上の支援を含む、地域の観測能力と知識ネットワークの発展を奨励するために、協調を図りながら一貫性のある方法で連携アプローチを強化する。
- v. 将来の定常海洋観測の強化に必要な追加的な活動を特定することにより、G7 の政治的な連携強化を推進する。

我々は、この分野におけるアクションを前進するために、専門家会合を将来の作業部会として維持することを賛成する。

同時に、ベルリンでの 2015 年 G7 科学大臣会合の同意に基づき、海洋ごみ(プラスチックごみを含む)と深海底鉱業が環境に及ぼす影響に関する研究のフォローアップの状況について、レビュー及び議論を行った。我々は、特に、海洋ごみの規模や影響をより良く把握するため科学的活動の重要性を再確認した。こうした活動は、G7 富山環境大臣会合で示された重点施策の実施に寄与することになる。

* SDG14:「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」